

令和7年度 事業報告書

(令和7年1月1日から令和7年12月31日)

公益財団法人 運動器の健康・日本協会

I. 法人組織の状況

(1) 会員数(令和7年12月末現在)

参加団体会員	47 団体(前年度から2 団体増、1 団体減)
参加協力会員	12 団体(前年度から増減なし)
支援会員	8 団体(前年度から増減なし)
特別賛助会員	3 社(前年度から増減なし) エーザイ(株)、第一三共(株)、久光製薬(株)
賛助会員(シルバー)	5 社(前年度から増減なし) 旭化成ファーマ(株)、小野薬品工業(株)、科研製薬(株)、 大正製薬(株)、帝人ファーマ(株)
賛助会員(ブロンズ)	3 社(前年度から増減なし) ジンマーバイオメット合同会社、中外製薬(株)、(株)八神製作所
賛助会員(一般)	7 社(前年度から1社減) (株)キャリア、(株)さくら工芸社、東名ブレース(株)、(有)長野製作所、 (株)南江堂、日本ストライカー(株)、(株)大和義肢製作所

(2) 諸会議・会合

1) 評議員会(いずれも現地出席と Web 参加のハイブリッド式)

2月22日(土) 12時30分	第15回定時評議員会<如水会館>
12月13日(土) 12時30分	臨時評議員会<如水会館>

2) 理事会(いずれも現地出席と Web 参加のハイブリッド式)

1月23日(木) 14時	第6回理事会<如水会館>
2月22日(土) 15時	第1回理事会<如水会館>
4月20日(日) 12時	第2回理事会<明治記念館>
7月17日(木) 14時30分	第3回理事会<如水会館>
8月8日(金) 14時	第4回理事会<オンライン>
11月20日(木) 14時30分	第5回理事会<如水会館>

3) 業務執行理事会(*は一部 Web 参加)

1月16日(木)	本郷事務局*
2月22日(土)	如水会館
3月18日(木)	本郷事務局*
4月15日(火)	本郷事務局*
5月26日(月)	本郷事務局*
6月24日(火)	本郷事務局*
7月8日(火)	本郷事務局*
9月1日(月)	本郷事務局*
10月7日(火)	本郷事務局
11月11日(火)	本郷事務局*
12月16日(火)	東京ガーデンパレス

4) 第14回会員連絡協議会(現地出席)

4月20日(日) 13時30分 <明治記念館>

(3) 人事関係

1) 役員改選

理事任期満了に伴う理事選任により、「役員等候補者選出委員会」で、再任理事14名、新たに理事3名、退任2名の審議を行い、選任した。

退任理事 島田洋一氏、桃原茂樹氏

新任理事 佐浦 隆一氏、中島 康晴氏、西田 圭一郎氏

監事の追加選任として同じく「役員等候補者選出委員会」で新任1名の審議を行い選任した。

新監事 齋藤 知行氏

2) 評議員の辞任と後任の選任

評議員3名から職務上の異動に伴い辞任の申し出があり、後任評議員を次の通り選任した。いずれも前任者の残任期間を委嘱期間とした。

退任 草野 修一氏 後任評議員 早野 晶裕氏 5月9日(金)みなし決議により選任

退任 金島 良徳氏 後任評議員 貫 哲也氏 7月30日(水)みなし決議により選任

退任 秋山 哲雄氏 後任評議員 齋藤 久氏 12月13日(土)臨時評議員会で選任

(4) 運動器関連事業申請の許可

令和7年度内、以下の運動器関連事業の後援・転載申請があり許可した。

1) 2月: 第60回日本理学療法学会 名義後援

2) 2月: 転倒予防フォーラム岩手2025 後援

3) 8月: 日本転倒予防学会 第12回学術集会

II. 公益事業1

(1) 顕彰事業「運動器の健康・日本賞」

1) 令和7(2025)年度入賞者の表彰

令和7(2025)年度の応募数は27件。入賞者の表彰式を4月20日(日)に明治記念館で行った。

表彰式は、受賞8件の全受賞者が現地参加で行われた。

また当協会理事、監事、評議員をはじめ参加団体・特別賛助・賛助会員各社など56名が参加した。表彰者には記念のトロフィーと賞金の目録が贈られた。入賞者は次の通り。(敬称略)なお、今年度は、理事長特別賞は該当者なしとした。

【運動器の健康・日本賞】 (100万円)

・足元からの健康づくり 能登 Foot 活(復活)支援事業

石川県立大学体育学研究室 宮口和義、恵寿総合病院

【運動器の健康・優秀賞】 2件 (25万円)

・高校運動部の選手・マネージャーのための「メディカルトレーナー講習会」

(大阪医療福祉専門学校)

・病気や障がいのある子どもと家族へ、スポーツ・芸術・文化を通じて世界観を広げられるような機会を提供する活動

(特定非営利活動法人 AYA)

【運動器の健康・奨励賞】 5件 (10万円)

・地方都市における膝前十字靭帯損傷予防啓発プロジェクト: スポーツ傷害から選手を守る

る取り組み

(弘前大学医学部附属病院リハビリテーション部・弘前大学大学院医学研究科リハビリテーション医学講座)

- ・児童の前・後屈時腰痛発症ゼロを目指す取り組み
(九州看護福祉大学・吉里雄伸／山鹿市教育委員会／山鹿市立菊鹿小学校)
- ・全国シルバーリハビリ体操指導士連合会交流会
(全国シルバーリハビリ体操指導士連合会)
- ・和のウェルビーイング NOSS を活用した、機能改善・維持に役立つ 運動習慣の普及活動
(日本舞踊スポーツ科学協会)
- ・多世代で地域の子どもの元気な育ちを支える里山探検活動
(楽育ひろば tomi)

2) 令和 8(2026)年度顕彰事業の公募

運動器の健康・日本賞は、今回で 14 回目を迎える。例年通り公募することにした。表彰式は、4 月 19 日(日)に行われる会員連絡協議会開催当日に行う。

公募と審査委員会など関連日程は次の通り。

公募の開始	2025 年 9 月 1 日(月)
応募締め切り	2026 年 1 月 10 日(土)
審査委員会	2026 年 1 月 20 日(火)午後 4 時
理事会決済	2026 年 1 月 22 日(木)午後 2 時
発表	2026 年 2 月 7 日(土):事前配信 4 日(水)
表彰式	2026 年 4 月 19 日(日)14 時 30 分
プレゼン	同上 15 時
懇親会	同上 16 時

審査委員として理事から 6 名、特別賛助会員から 3 名、報道機関から 2 名の合計 11 名を選任した。

入賞者には日本賞(100 万円)、優秀賞(25 万円)、奨励賞(10 万円)、理事長特別賞1件(20 万円)をそれぞれ贈る。

(2) 広報事業・「運動器の健康に関する広報活動」

担当理事 竹下 克志 担当委員 土原 亜子

1)『Moving Web』による広報活動

一般読者にむけて、当協会の疼痛予防委員会や管理栄養士などの専門家に運動器疾患予防等の情報を掲載した。

疼痛予防委員会の記事は以下の通り。

- ・「五十肩」、本当は「凍結肩」？ (東北大学整形外科准教授 山本宣幸)
- ・「骨を強くして骨折を防ぎ、健康寿命を延ばしましょう」(愛知医科大学メディカルセンター准教授 井上真輔)
- ・「安静にしておくべき？腰痛や関節痛など痛みの悪循環を断つために」
(神戸学院大学総合リハビリテーション学部 松原貴子)

管理栄養士による記事は以下の通り。

- ・「骨の強化に毎日納豆 1 パック！」
- ・「中高年が筋肉を落とさずに体脂肪を落とす方法」
- ・「40 代以降に増えるこむら返り予防法」
- ・「スタミナアップは鉄分がカギ！」 など 10 本

2) 『協会ホームページ』による広報活動

「認定スクールトレーナー事業」関連情報やこれまでの養成講習会の結果などを告知した。このほか、ホームページの内容を逐次更新し、当協会の概要および、刊行物等の紹介、国民に当協会の活動内容を広く知ってもらうための記事の充実を図った。

3) WEB サイトの広報活動のページビュー(PV)数

ホームページアクセス数は、月平均で約 10 万 PV だった。

4) BJD ロゴマークバッジの頒布

BJD バッジの令和 7 年度内の配布は、無償が 17 個、期末在庫は 1,030 個となった。

(3) 運動器の健康推進事業

1) 子どもの運動器の健康推進事業

① 学校保健事業

ア. 委員会の構成

担当理事	武藤 芳照	東京健康リハビリテーション総合研究所
担当理事	内尾 祐司	島根大学医学部整形外科学教室
担当理事	大工谷 新一	北陸大学医療保健学部理学療法学科
委員長	森原 徹	丸太町リハビリテーションクリニック
委員	板倉 尚子	日本女子体育大学健康管理センター
	菊山 直幸	公益財団法人日本中学校体育連盟
	鈴川 仁人	横浜市スポーツ医科学センター スポーツ科学部
	中川 和昌	高崎健康福祉大学保健医療学部 理学療法学科
	三澤 晶子	秋田県立医療療育センター 整形外科
	村井 伸子	全国養護教諭連絡協議会
	山中 龍宏	緑園こどもクリニック

イ. 委員会開催

10 月 7 日 第 1 回委員会 Web 開催

ウ. 事業の概要

今年度は、学校保健委員会としての活動は「公 2」の認定スクールトレーナー事業に全面的にシフトした。

② 成長期のスポーツ外傷予防啓発事業

ア. 委員会の構成

担当理事	稲垣 克記	昭和医科大学
担当理事	吉井 智晴	東京医療学院大学保健医療学部リハビリテーション学科
委員長	渡邊 幹彦	東京城南整形外科スポーツ整形外科
副委員長	坂本 雅昭	高崎健康福祉大学保健医療学部理学療法学科
副委員長	大歳 憲一	おおとし消化器整形外科
委員	岩間 徹	潤生会岩間整形外科
	小林 敦郎	順天堂大学医学部付属静岡病院リハビリテーション科
	小山 吉男	(公財)全日本軟式野球連盟
	田鹿 毅	群馬大学大学院保健学研究科応用リハビリテーション分野
	帖佐 悦男	潤和会記念病院 総合リハビリテーションセンター
	正富 隆	行岡病院

	松浦 哲也	徳島大学病院 総合リハビリテーション部
	森原 徹	丸太町リハビリテーションクリニック
アドバイザー	高岸 憲二	医療法人佐田厚生会佐田病院
作業部会	日傳 宗平	長谷川記念病院リハビリテーション科
	福原 隆志	秋田リハビリテーション学院

イ.委員会開催

4月28日(月)	PT 関係第1回小委員会	Web 会議
5月16日(月)	PT 関係第2回小委員会	Web 会議
6月2日(月)	第1回委員会	Web 会議
6月21日(月)	PT 関係第3回小委員会	Web 会議
10月24日(金)	第2回委員会	Web 会議
12月6日(土)	PT 関係第4回小委員会	本郷事務局

ウ.事業の概要

i. 成長期の障害予防・指導者講習会講師派遣

今年度は全日本軟式野球連盟主催の下記指導者講習会にドクター講師 1 名と理学療法士講師 1 名と補助講師 2 名を派遣した。理学療法士の講師は、講師養成講習会修了者から委嘱した。

年度内の派遣実績は下記の通り。会場での参加者は 641 名。

* 上段はドクター、下段は理学療法士の講師

- ・1月12日(日) 九州・鹿児島県 受講者 35 名
ドクター講師 藤井 康成(鹿屋体育大学スポーツ生命科学系)
理学療法士講師 永濱 良太(恒心会おぐら病院リハビリテーション科)
- ・1月18日(土) 関東・東京都 受講者 14 名
ドクター講師 田中 紗代(愛正会記念茨城福祉医療センター)
理学療法士講師 岩山 睦(浮間中央病院)
- ・1月26日(日) 東北・岩手県 受講者 39 名
ドクター講師 大歳 憲一(おおとし消化器整形外科)
理学療法士講師 田頭 貴拓(佐藤整形外科クリニック)
- ・2月8日(土) 東海・愛知県 受講者 84 名
ドクター講師 後藤 英之(至学館大学健康科学部健康スポーツ科)
理学療法士講師 桑原 基宏(春日井整形あさひ病院リハビリテーション科)
- ・10月26日(日) 北海道・砂川市 受講者 37 名
ドクター講師 門間 太輔(北海道大学病院スポーツ医学診療センター)
理学療法士講師 幸嶋 悠介(岩見沢市立総合病院リハビリテーション科)
- ・11月9日(日) 九州・沖縄県 受講者 74 名
ドクター講師 喜友名 翼(那覇市立病院整形外科)
理学療法士講師 新垣 翔太(首里千樹の杜クリニックリハビリテーション科)
- ・12月13日(土) 東海・静岡県 受講者 143 名
ドクター講師 吉田 雅人(名古屋市立大学運動器スポーツ先進医学講座)
理学療法士講師 小田 心太朗(あかりクリニック)
- ・12月20日(土) 中国・島根県 受講者 16 名
ドクター講師 山本 宗一郎(島根大学医学部整形外科学)

- 理学療法士講師 影山 哲士(雲南市立病院 リハビリテーション技術科)
- ・12月21日(日) 東北・宮城県 受講者 34名
 - ドクター講師 大歳 憲一(おおとし消化器整形外科)
 - 理学療法士講師 黒木 薫(東北福祉大学 健康科学部リハビリテーション学科)
 - ・12月21日(日) 岐阜県 受講者 163名
 - ドクター講師 武長 徹也(名古屋市立大学医学研究科整形外科学)
 - 理学療法士講師 櫻井 健司(かわしま整形外科リハビリクリニック リハビリテーション科)

ii. 肩・肘検診基本マニュアルによるモデル検診実施

本委員会で設定した成長期の野球選手のための検診マニュアルに基づいて、年度内に群馬、大阪、徳島、宮崎の4府県で実施した。以上の検診実施5府県に各10万円の補助金を支給した。

iii. 少年野球指導者講習会講師養成講習会開催の件

全国各地で地域差なく講師が選任できるよう、都道府県の理学療法士会から受講者の推薦協力が得られた。講師養成講習会は、9月20日(土)、都道府県理学療法士会に告知して応募した受講生140名が参加して下記の講座内容で無事に終了した。

講座1 成長期のスポーツ障害予防事業の概要	坂本雅昭副委員長
講座2 成長期のスポーツ障害予防	渡邊幹彦委員長
講座3 実技講義	小林敦郎委員
質疑応答	

iv. 理学療法士講師養成講習会修了者との情報交換会(継続事業)

12月7日(日) 10:30~12:55 オンライン開催(無料)

講師修了者131名が参加希望、実際には90名が視聴した。本年度は、WBC日本代表前監督をゲストに迎え、特別公演を行った。また各地域における活動について、各種スポーツ競技のみならず、学校における健康教育活動など多様化している状況が理解された。さらに各活動の実施に際しての関係各所との調整や活動の詳細、課題等について意見交換がなされ、今後の各地域における活動に有益な情報提供の機会となった。当日の次第は次の通り。

- 1 総合司会の渡邊裕之委員による開会に続き、吉井智晴担当理事挨拶
- 2 特別講演 栗山英樹(WBC日本代表前監督)
- 3 全国講師修了者による活動報告
 - 座長:福原隆志(部会委員)
 - 発表1:秋田県・齊藤明氏
「日本一の少子化県が取り組む投球障害予防教室」
 - 発表2:群馬県・岩崎和樹氏
「群馬県前橋市中学校体育連盟サッカー競技障害予防サポート事業について」
 - 発表3:神奈川県・栗田健氏
「医療の知識を用いた小学校保健体育授業の講演経験」
 - 座長:日傳宗平(部会委員)
 - 発表4:滋賀県・宮野瑞樹氏

「ハンドボールチームに対する検診活動の現状と課題」

発表 5: 香川県・山崎竜司氏

「高校女子バスケットボール部における強化・予防・復帰をつなぐ包括的トレーナー支援」

発表 6: 大阪府・森岡俊行氏

「学童軟式野球大会における障害予防活動の取り組み」

4 講師修了者からのアンケート結果報告 小林敦郎委員

5 坂本副委員長より閉会挨拶

2) 運動器外傷の救急医療に関する事業

ア. 委員会の構成

担当理事 田尻 康人 地方独立行政法人東京都立病院機構 都立広尾病院

委員長 井口 浩一 埼玉医科大学総合医療センター

委員 黒住 健人 帝京大学医学部 外傷センター

坂本 哲也 公立昭和病院

鈴木 卓 帝京大学医学部 救急医学講座

野田 知之 川崎医科大学総合医療センター

宮本 俊之 国立病院機構 長崎医療センター 整形外科

アドバイザー 三上 容司 独立行政法人労働者健康安全機構 横浜労災病院

イ. 委員会開催

6月 5日(木) 第1回委員会 Web 会議

8月 27日(水) 動画配信検討小委員会

ウ. 事業の概要

わが国における運動器外傷に対する救急医療の質の向上と救急外傷センターシステムの構築をめざす活動への支援、協力を目的に、運動器外傷登録制度への支援と協力、わが国における救急外傷センターシステムの必要性に関する啓発活動を目標としてきた。

i. 医療関係者への動画配信

本年 5 月に配信したコンテンツの内容が充実しているため、一方向だけでなく、コンテンツの内容に沿ったディスカッションとチャットで寄せられた意見を採用するなど、双方向のオンラインシンポジウム『増え続ける高齢者運動器外傷への総力戦』を計画、実施した。事前に参加希望者(オンデマンドを含む)を募集したところ、265 名の参加希望があった。

動画は 12 月 14 日(日)14 時からライブ配信し、実際の視聴者は約 50 名。配信後、編集したコンテンツを視聴申し込みのあった希望者に 12 月 27 日からオンデマンドで配信した。この視聴期間は来年 2 月末までとした。

①外傷診療虎ノ巻 虎の門病院外傷センター 黒住 健人

座長 井口委員長 対談者 宮本委員

②頚髄損傷に対する急性期リハビリテーション介入

埼玉医科大学総合医療センター 井口 浩一

座長 田尻理事 対談者 井口委員長

③診療看護師(NP)の役割 医師の働き方改革とタスクシェアへの貢献

長崎医療センター 溝上 佳史

座長 宮本委員 対談者 井口委員長

ii. 外傷センター体制構築に関わる日本外傷学会の提言への対応

2021年5月、日本外傷学会より「地域における包括的診療体制についての提言」が発出され、井口委員長からその後の経過が報告された。外傷学会がコンダクター的役割とし、外科・脳外科・整形外科がプレイヤーとしての役割を担う方向が示された。日本外傷学会と日本整形外傷学会との間で連携が進展しつつあり、今後を注視することとした。

3) 脆弱性骨折予防に関する事業

ア. 委員会の構成

担当理事 萩野 浩 山陰労災病院
委員長 山本 智章 新潟リハビリテーション病院
委員 沖本 信和 沖本クリニック
熊木 光包 サンライズ酒井病院 整形外科
田中 雅博 りんくう永山病院整形外科 リハビリテーション科
宮腰 尚久 秋田大学医学部整形外科学講座
山崎 薫 磐田市立総合病院

イ. 委員会開催

6月17日(火) 第1回委員会 Web会議

8月21日(木) 第2回委員会 Web会議

ウ. 事業の概要

i. 『二次骨折予防手帖』の普及活動

2020年4月と8月に合わせて5,000部を発行したが、今年度内に在庫が無くなった。これまでの配付実績は次の通り。

無償 2,588部 有償(200円) 2,408部

売上 @200円 × 2,408部 = 481,600円

制作費用 765,000円

手帖の配付希望が中断なくあり、必要な改訂を行ったうえで、第3版の増刷を行うこととした。主な改訂箇所は以下の通り。

- 1 協会の活動内容紹介は、刻々変わるのでQRコードを設定し新たな情報を提供できるようにする。巻末に記載。
- 2 二次骨折を“二次性骨折”に修正統一する。
- 3 「片脚立ちでバランス強化」で上げた方の手を机に支えるのが正しく修正する。
- 4 「栄養」のページに紫外線(日光浴)と「口腔ケアかかりつけ歯科」の説明を追加する。栄養のガイドラインを2025年7月に出された内容に変更。
- 5 二次性骨折予防の管理料を急性期がとったことを診療所に知らせることができるメモを○月○日算定あり、などと最後のチェックページに記載。
- 6 座位の姿勢を運動のページで追加する。
- 7 「スタッフからのメッセージ」で「ケースワーカー」を「ソーシャルワーカー」に変更する。

『二次骨折予防手帖』は、広く医療関係者および一般市民への啓発を推進し、二次性骨折予防の実現を図ることができた。改訂版の普及も各委員が関連の医療機関などに呼びかけることとした。なお改訂版発行の費用は、令和7

年度と8年度の予算を充てることとした。

年度内の配布状況は次の通り。

無償配布 0部 有償配布 90部 在庫数 0部

次年度、改訂版『二次性骨折予防手帖』発行に向けて編集作業を行い、12月末に印刷業社に発注した。来年4月中に完成の見込み。

4) 運動器疼痛対策事業

ア. 委員会の構成

担当理事	池内 昌彦	高知大学医学部整形外科
同	西田 圭一郎	岡山大学病院運動器疼痛センター
委員	鈴木 秀典	山口大学医学部整形外科
	園畑 素樹	JCHO 佐賀中部病院
	鉄永 倫子	岡山大学病院運動器疼痛センター
	松平 浩	Tailor Made Back pain Clinic
	三木 健司	大阪行岡医療大学医療学部
	矢吹 省司	福島県立医科大学保健科学部

イ. 委員会開催

7月2日(水) 第1回委員会 Web 会議

ウ. 事業の概要

本委員会の事業として、運動器疼痛がもたらす QOL の低下や社会的損失の現状について情報発信し、啓発活動をとおして運動器疼痛対策の重要性について広く一般に周知すること。また、運動器疼痛対策に関するエビデンスを、一般市民と医療者それぞれが必要とする有用な情報として整理・発信し、運動器の健康づくりに寄与することを目的として以下の事業を実施した。

i. 『Moving Web』に次の原稿を出稿した。

- ・2月 「五十肩」、本当は「凍結肩」?
東北大学整形外科准教授 山本宣幸
- ・5月 「骨を強くして骨折を防ぎ、健康寿命を延ばしましょう」
愛知医科大学メディカルセンター准教授 井上真輔
- ・10月 「安静にしておくべき? 腰痛や関節痛など痛みの悪循環を断つために」
神戸学院大学総合リハビリテーション学部 松原貴子

ii. 『膝の痛みセルフケア手帳』の発行

2000部を制作、747部を関係者に無償配布。1部300円(送料別)で一般に配布中。

III. 公益事業 2 「認定スクールトレーナー制度」資格認定事業

(1) 事業推進各種委員会の構成

1) 制度委員会 全般の管理運営業務

委員長	内尾 祐司	理事(島根大学医学部整形外科学)
副委員長	竹下 克志	業務執行理事(自治医科大学医学部整形外科学)
同	大工谷 新一	理事(北陸大学医療保健学部)
同	吉井 智晴	業務執行理事(東京医療学院大学保健医療学部)
委員	稲垣 克記	理事(昭和医科大学)
同	衛藤 隆	評議員(医療法人社団敦保恵比寿こどもクリニック)

同	三上 容司	専務理事(独立行政法人労働者健康安全機構横浜労災病院)
同	武藤 芳照	業務執行理事(一社・東京健康リハビリテーション総合研究所)
同	渡邊 幹彦	成長期委員長(東京城南整形外科スポーツ整形外科)

2)カリキュラム委員会 基礎研修の策定、教育研修講演の策定・認可

委員長	吉井 智晴	業務執行理事(東京医療学院大学保健医療学部)
副委員長	板倉 尚子	学校保健委員(日本女子体育大学健康管理センター)
委員	角杉 美恵子	(有明教育芸術短期大学)
同	坂本 雅昭	成長期委員(高崎健康福祉大学保健医療学部)
同	鈴木 享之	学校保健委員(社会医療法人社団大成会長汐病院)
同	中川 和昌	学校保健委員(高崎健康福祉大学保健医療学部)
同	松浦 哲也	成長期委員(徳島大学病院リハビリテーション部)
同	村井 伸子	学校保健委員(全国養護教諭連絡協議会)
同	森本 孝則	(安全教育株式会社)
作業部会	渡邊 祐介	(東京脊椎クリニックリハビリテーション科)
同	川口 和樹	(医療法人社団愛友会伊奈病院リハビリテーション技術科)
同	中久保 拓哉	(医療法人社団村上整形外科クリニック)

3)資格委員会 受験資格に関する書類審査と更新時の資格審査

委員長	大工谷 新一	理事(北陸大学医療保健学部)
副委員長	森原 徹	学校保健委員(丸太町リハビリテーションクリニック)
委員	川本 晃平	(島根大学医学部附属病院)
同	鈴川 仁人	学校保健委員(横浜市スポーツ医科学センター)
同	田尻 康人	理事(地方独立行政法人東京都立病院機構広尾病院)
作業部会	高橋 歩	(NTT 東日本札幌病院リハビリテーションセンター)
同	山崎 竜司	(香川大学医学部附属病院医療技術部リハビリテーション部門)
同	福本 貴彦	(畿央大学 大学院 健康科学研究科 畿央大学 健康科学部 理学療法学科)
同	中尾 陽光	(湘南医療大学 保健医療学部リハビリテーション学科 理学療法専攻)
同	赤岩 龍士	(富士リハビリテーション大学スポーツリハビリテーション課程 主任)

4)試験委員会 試験問題の作成、試験の実施・運営

委員長	竹下 克志	業務執行理事(自治医科大学医学部整形外科学)
副委員長	渡邊 裕之	成長期委員(北里大学医療衛生学部)
委員	菊山 直幸	評議員((公財)日本中学校体育連盟 元専務理事)
同	小林 敦郎	成長期委員(順天堂大学医学部附属静岡病院)
同	三澤 晶子	学校保健委員(秋田県立医療療育センター整形外科)
同	村井 伸子	学校保健委員(全国養護教諭連絡協議会)
同	吉川 二葉	(独立行政法人労働者健康安全機構横浜労災病院リハビリテーション科)

5)監理委員会 制度の公平・公正な運用の確認

委員長	藤谷 順子	評議員(国立国際医療研究センター病院)
委員	齋藤 健司	評議員(国立大学法人筑波大学体育系)
同	園山 和夫	評議員(公益社団法人日本グラウンド・ゴルフ協会)

(2)委員会の開催 いずれも Web 会議(前年度から継続回数)

1) 制度委員会

2月3日(月) 第12回制度委員会	4月1日(火) 第13回制度委員会
7月1日(火) 第14回制度委員会	8月7日(木) 第15回制度委員会
9月29日(月) 第16回制度委員会	12月13日(土) 第17回制度委員会・稟議

2) カリキュラム委員会

1月20日(月) 第10回カリキュラム委員会 8月25日(月) 第11回カリキュラム委員会

3) 資格委員会

1月30日(木) 第7回資格委員会 6月16日(木) 第8回資格委員会
7月14日(月) 第9回資格委員会 11月26日(木) 第10回資格委員会

4) 試験委員会

1月28日(火) 第9回試験委員会 3月26日(水) 試験委員会作業部会
5月25日(日) 試験委員会作業部会 7月13日(日) 試験委員会作業部会
8月3日(日) 合否判定作業 9月24日(水) 第10回試験委員会

5) 監理委員会

2月22日(土) 第1回監理委員会 8月7日(木) 第2回監理委員会

(3) 令和7(2025)年度 第2回認定スクールトレーナー養成講習会

1) 受講者

1 都道府県理学療法士会推薦(各2名)	94名	
2 一般募集申し込み(795名)抽選により選出	47名	
3 特別枠(モデル事業推進者)	9名	
4 昨面对面式講習会欠席者	1名	合計 151名

2) 受講料 4万円

3) 基礎講習(eラーニング) 30科目

5月10日(土)~7月15日(火) 確認テスト全員達成

4) 対面式講習会

① 実施日 8月2日(土) 12時50分から17時30分
同 3日(日) 9時から15時30分

② 会場 芝浦工業大学豊洲キャンパス 本部棟

③ 主催・協力 主催>公益財団法人運動器の健康・日本協会
協力>公益社団法人日本理学療法士協会

④ 出席者 主催者関係

理事長 松本守雄 専務理事 三上容司 業務執行理事 武藤芳照

委員会 制度委員会 内尾祐司委員長

資格委員会 大工谷新一委員長 森原 徹 田尻康人 鈴川仁人 中尾陽光

試験委員会 竹下克志委員長 渡邊裕之 菊山直幸 村井伸子 小林敦郎

吉川二葉

カリキュラム委員会 吉井智晴委員長 板倉尚子 角杉美恵子 坂本雅昭

村井伸子 鈴木享之 渡邊祐介 川口和樹 中川和昌 森本孝則

支援スタッフ 高木秀明(千葉)

協力団体 日本理学療法士協会・斉藤秀之会長

芝浦工業大学・山本創太教授

5) 講習内容と受講者

① 受講者数 151名(1名忌引き欠席)

② 講義 4科目 ・レポート提出 2科目 ・演習 7科目

③ 演習の内容

・グループ:6~7名で1グループ編成、24グループを班別構成

- ・演習課題：体力テスト結果を参考に運動指導案を作成し、発表
その後実技演習を実施
4種類の目的のケースを設定
ア. ソフトボール投げの結果向上
イ. 姿勢改善
ウ. 肥満改善
エ. 柔軟性改善
対象は、小3、小5、中1、中3の男女、集団指導を設定
- ・履修判定：グループで作成した運動指導案のパワーポイントの成果物と実技演習への参加（履修修了条件には入っていないが、実技演習のアンケート実施中）
グループワークへの全員の参加については、ファシリテーターが確認した。

6) 資格認定試験について

① 第2回認定試験作成に当たって

第1回の平均点が89.27点（100点満点）と比較的高得点であったので、第2回の平均点は、40点（50点満点）を目途とすることとした。

② 問題の入れ替え

第1回試験問題からおよそ1/3を入れ替える方針とし、50問中16問を新たに入れ替えた。第1回から削除した問題は、全員が正解した9問（前回全員正解は11問）、最低点だった34点の問題、識別指数で-0.1437の問題も入れ替えた。

また設問で「正しいものを選び」「間違っているものを選び」に対し、選択する回答の表記が明確ではないものについて、出題者の原案から一部修正した。

③ 第2回認定試験実施結果

i	受験者総数	150名（1名忌引き欠席）	
ii	規程により合格とみなす者	150名（30点以上）	
iii	資格認定試験結果	最高点（96点）	1名 100点・1名（前回）
		最低点（62点）	1名 76点・1名（前回）
iv	平均点	83.5点	89.27点（前回）
v	標準偏差値	6.3	4.58（前回）
vi	全員正解	4問	
vii	識別指数がマイナスとなったのはなし。		

（注）第2回は50問、50点満点としたが、前年比較のため50問100点満点として表記した。

7) 資格認定について

8月7日（木）オンラインにより制度委員会を開催（内尾委員長以下6名出席）、認定試験合否判定結果（150名）を確認、監理委員会に提示することとした。

1 8月7日（木）オンラインにより第2回監理委員会（2名出席）を開催、制度委員会が提示した第2回養成講習会実施内容並びに認定試験合否判定結果（150

名)を確認、承認を得た。

② 8月8日(金) オンラインで第4回理事会開催(13名出席)、第2回養成講習会実施内容並びに認定試験合否判定結果(150名)を確認、承認した。

③ 8月9日(土) 11時に協会HPを通じて資格認定合格者の発表を行った。

(4) 「認定スクールトレーナー」2025年度 第2回研修会 実施結果

1) 名称 2025年度「認定スクールトレーナー」第2回研修会

2) 主催 公益財団法人運動器の健康・日本協会

3) 協力 公益社団法人日本理学療法士協会

4) 日時 11月1日(土) 13時~16時10分 オンラインで開催(ウェビナー方式)
*研修会終了後、動画を作成し11月10日(月)から同30日(土)までオン
デマンドで受講者(欠席者を含む)に配信。

5) 発信会場 東京都渋谷区・スポーツITソリューション会議室

6) 受講者 2025年度第2回認定スクールトレーナー養成講習会・資格認定者(150
名、うち欠席につきレポート提出者24名)

7) 次第

司会> 板倉尚子(カリキュラム委員会副委員長)

① 開会の挨拶 (公財)運動器の健康・日本協会・松本守雄理事長(5分)

② 本日の研修会の目的 「認定スクールトレーナー」制度委員会

内尾祐司委員長(15分)

③ 認定スクールトレーナーの行動規範及び最新の情報について

武藤芳照業務執行理事(15分)

④ 『学校教育全体で取り組む生徒の体力向上と健康教育』

中野区立中野中学校 校長 竹之内 勝 氏(35分)

(講義 30分、質疑 5

分)

<休憩>10分間

⑤ 各地区のモデル事業並びに活動について情報交換

(15分×4人 60分)

北海道・佐藤義文氏 「ジュニアテニス選手へのアンケート 身体故障の調
査より」

東京都・齋藤弘樹氏 「東京都理学療法士協会の学校保健事業の活動報告~
事業の発展に向けた取り組み~

長野県・堀内美貴也氏 「様々な介入方法で学校保健に携わる」

熊本県・吉里雄伸氏 「児童の前・後屈時腰痛発症ゼロを目指す取り組み」

<休憩>10分間

⑥ 所定の単位取得と申請方法(更新資格更新手続き)

「認定スクールトレーナー」資格委員会 大工谷新一委員長(15分)

⑦ 総合討議(15分)

登壇者 内尾委員長 武藤業務執行理事 板倉尚子委員

⑧ 閉会の挨拶 内尾委員長

以上